

が保存修理事業を行いました。
(現地解説板(昭和50年6月 岡山市教育委員会)より)

おみずえん 近水園

(岡山県指定名勝)

B-11

・旧足守藩主木下家の庭園として江戸時代の中頃までに作庭された池泉回遊式の



庭園で、昭和34年に岡山県の名勝に指定されました。足守藩は、2万5千石の小藩ですが、宮路山の南麓に陣屋・会所などの藩の中核施設とともに大名庭園として、この近水園が配されています。

本園は池を中心として簡素な設計がなされていますが、池には鶴島・亀島が浮かんでいます。亀島には、亀頭石、中心石、脚石、亀尾石などが、その名のとおり配されています。池に面して建つ吟風閣は、6代目の藩主白定が宝永5年(1708)、京都御所(仙洞御所)を造営した時に、その残材をもって建てたといわれます。数寄屋造りのたたずまいが、水面に影を落とし、情緒をそえています。

(現地解説板より)

市内最大規模の ゲンジボタル生息地

A-14

・ここは「ホタルの里」足守です。ホタルを守り、ホタルのすめる水辺環境を保全するため、平成4年5月22日に岡山市は足守地域を「ホタルの里」に指定しました。岡山市の北西部に位置する本地域では、5月下旬から6月にかけて各地区でホタルが見られます。特に、大井トンネル下の足守川では、数千匹のホタルの乱舞が見られ、市内一のホタルの発生地になっています。これほどホタルの多く見られるということは、水清く、魚類や鳥類等の動物にもすみやすい豊かな自然に恵まれている証でもあります。また、地域住民のホタル保護活動も活発で、このような地元の方の理解があって、この自然が保たれていることを忘れることはできません。みなさんとともに、このホタルの里を守り、ぜひとも後世に伝えていきたいと考えます。

(現地解説板より)



Bルート《大井バス停》

やくいじんしゃ 矢喰神社

B-3

・御祭神は吉備武彦命です。後に大満宮を合祀したので、矢喰神社、又は矢喰天満宮と呼んでいます。創立年代は不詳です。吉備津宮縁起によれば、第十代崇神天皇の時、百済の王子温羅と云う者がいました。両眼が大きく、毛髪赤く、頬骨強大、身の丈拔群、その性勇悍、腕力絶大、常に仁義を守らず、日本を何んとする志がありました。本朝に來り、諸州を視察する内、遂に吉備の国新山に登りました。この地方の勝れたるを見てこの所に大門を起し、城壁を築き、矢倉を立てて城郭となして居を構え、時には西国より、帝京に送る貢物を奪取しました。近里往來して人民を悩ませました。時の人この城郭を鬼の城と称し恐れました。天皇勅して大吉備津彦命を派遣して之を征伐せしめられました。即ち彦命は兵数1000を率いて東の方吉備の中山に陣し、西の方は日畑西山(倉敷市・橋梁山)に出て石橋を築き甲兵を引き、鬼の城に向い温羅と戦いました。彦命、矢を放てば温羅の矢と空中に噛み合い海中に飛び入りました。其の所に宮を建てて矢喰宮と云いました。之が今日の矢喰神社です。彦命再び千鈞の大矢二筋を番え発したところ、その一矢は喰って前の如く海中に飛び入りましたが、他の一矢は温羅の左眼に命中しました。その流血で流れは川の如くでした。其のところを名づけて血吸川と云います。是に於て温羅は雉となって山中にかくれましたが、命は鷹と化して是を追いしました。次には鯉と化して血吸川に入ったので、命は鶴と化して噛んで之を揚げ、その所を名付けて鯉喰宮と云いました。温羅、遂に旗を垂れ鋒刀を棄てて降ったとあります。



以上は吉備津彦命にまつわる物語でこの地方に昔から語り伝えられている伝説です。いまの砂川が血吸川で血吸石があります。
(現地解説板(高松観光協会)より)

さこたどうやまこふん 坂古田堂山古墳

(県指定文化財史跡)

G-4

・長さ150mの前方後円墳で、県下でも大きさにおいて、5位にランクされる大古墳です。前方部が高松農業高校平山果樹園となっています。後円部の南東に続く尾根には、5基の陪塚がほぼ一直線に並んでいて、主墳にいちばん近い2号墳は、昭和34年に発掘調査され、竪穴式石室や人骨の一部・玉・鉄器などを発見しています。

(岡山市の歴史みであるき(岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月)より)



さいじょういなり 最上稲荷

(日本三大稲荷)

H-7

・伏見・豊川と並ぶ当山は太平勝宝4年(752)、報恩大師が当山八丈岩でご修行中に感得された「最上位経王大菩薩」が祀られています。孝謙・桓武両天皇の勅願で龍王山神宮寺と称したが中世秀吉の高松城水攻めによって焼失、慶長6年(1601)年中興の祖日内聖人が



てててロード

岡山市には、温暖な気候に育まれた自然が多く残り、吉備の国のもたらした古代の歴史的資源をはじめとする数々の歴史的、文化的遺産も多く、四季折々の風物も豊かです。しかし、車社会と呼ばれる今日では歩くことが少なくなり、これらの貴重な資源に触れる機会が減少し、歩くという健康的な活動から遠のいているといえます。このような状況を改善するため、岡山市では環境にやさしいまちづくりを進める一環として、ふるさと岡山をゆっくり歩き、身近な自然とのふれあいの場を提供する遊歩道の展開へ向けて「岡山市遊歩道ネットワーク(てててロード)」を策定しました。遊歩道ネットワークが広く市民に活用され、ふるさと意識の醸成、歴史文化財への理解、さらに健康づくりに貢献することを願っております。

ルート内の主な公共施設

JR備中高松駅	TEL086-287-2036	高松郵便局	TEL086-287-2300
中鉄バス(株)	TEL086-222-6601	岡山西警察署	TEL086-254-0110
高松地域センター	TEL086-287-3731	高松交番	TEL086-287-2053
足守地域センター	TEL086-295-1111	足守駐在所	TEL086-295-0104
高松公民館	TEL086-287-2057	大井駐在所	TEL086-295-0289
足守公民館	TEL086-295-1942		
足守図書館	TEL086-295-1942		
近水園(管理事務所)	TEL086-295-0981		
足守藩侍屋敷	TEL086-295-0983		
足守プラザ	TEL086-295-0001		
足守郵便局	TEL086-295-0300		

岡山市遊歩道ネットワーク (てててロード)

高松・足守ルートマップ

第4版:2013年(平成25年)3月発行
岡山市

お問い合わせ
岡山市都市整備局道路計画課
TEL086-803-1695

あきカン・ゴミは持ち帰りましょう

この尊像を擁護され聖跡を再興し、最上稲荷山妙教寺と改称されました。それ以来祈禱の名刹として又日本三大稲荷として名高いものになりました。
(現地解説板より)

高松城水攻め鳴谷川遺跡 (岡山県指定史跡)

I-8

・中国地方の平定を目指す織田信長は、西国の雄毛利氏の攻略を羽柴秀吉に命じました。秀吉は大正10年(1582)3月に、兵力3万をもって備中に攻め入り、国境の諸城を攻略しましたが、備中高松だけは攻めあぐねました。このため、城の近くを流れる足守川をせき止めて水攻めにして城主清水宗治に降服を迫りました。水攻めにあたって、足守川の水だけでは不足の場合を考え、高松城の背後の山間を流れる長野川をせき止め、「ないし」を約9m掘り下げて水を高松側に流し込もうとしました。工事は難航し、410mのうち91mを残すところで開城となりました。工事奉行は間に合わなかった責を負って自刃したといわれています。里人はこれを哀れみ塚をたてて供養しました。この塚が水奉行の墓といわれています。
(現地解説板(昭和62年3月 岡山市教育委員会)より)



しゅふくじほうでん 守福寺宝殿

(国指定重要文化財)

E-10

・この宝殿は、花崗岩製で、屋根は正面切妻・背面寄棟風に造り、正面に簡素な方柱を立て庇を出した、いわゆる春日造社殿の形式にならった高床式です。全体的に素朴な造りであるが木造建築の細部構造を一部に刻み出しています。向拝の石柱に「暦応元年(1338)11月22日」の銘があり、南北朝時代の遺造であることがわかります。裏山に所在していたとこのことであり、京都神護寺所蔵の「足守荘絵図」には吉福寺背後の山腹に王子堂と書かれた祠が描かれ、これがこの宝殿の前身であったと考えられます。
(現地解説板(平成5年3月 岡山市教育委員会)より)



だいこうじれいびょう 大光寺霊廟

(岡山県指定重要文化財)

A-10

・大光寺は、旧足守藩木下家の菩提寺。第三代藩主木下利当(1603~1669)が創建しました。この本堂の南側に、霊廟があります。この霊廟は、桁行3間・梁間2間の規模で、単層入母屋造、棧瓦葺の簡素な建物です



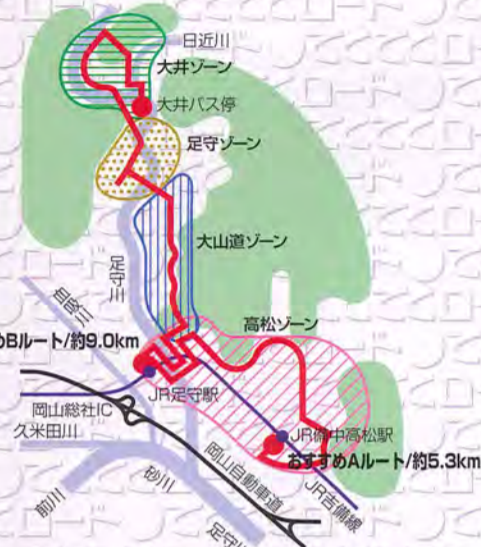
岡山市遊歩道ネットワーク てててロード 6



高松・足守 ルート

総延長距離 約14.3km

高松・足守ルートは、高松城水攻めに関する遺跡や古い石仏などが分布する「高松ゾーン」、大井道沿いの石仏や田園風景が広がる「大井ゾーン」、陣屋町として古いまちなみが残る「足守ゾーン」、商業地として栄えた古いまちなみが残り足守川沿いに豊かな自然が広がる「大井ゾーン」の4つのゾーンに分けられます。Aルートは、高松ゾーンで距離は約5.3kmです。Bルートは、大井道ゾーンから大井ゾーンで距離は約9.0kmです。



大井の古いまちなみと足守川沿いの自然

大井ゾーン

足守の陣屋町の歴史とまちなみ

足守ゾーン

大井道沿いの石仏と足守荘の田園風景

大井道ゾーン

高松城水攻めや古い石仏などの備中高松の歴史

高松ゾーン

が、県下でも数少ない霊廟建築の一つとして貴重な存在となっています。霊廟の内部は敷居及び鴨居で外陣と内陣に仕切られています。その内外陣の壁寄りに霊牌壇を設けていますが、正面に豊臣秀吉と正室ねねの霊牌をまつり、その左右に木下家歴代藩主の霊牌が配置されています。棟札などの記録がないので建築年代は不明ですが、廟内に吊された金剛製燈籠に「元禄12年(1699)庚辰夷則良日」と陰刻銘のあることなどから建築年代が推測され、第6代藩主木下白定が造営したものと想定されています。
(現地解説板(平成9年3月 岡山市教育委員会)より)

びつちゅうこくあしものしょう 備中国足守荘

(国指定重要文化財)

B-6

・足守荘は、嘉永元年(1169)、今から約840年前につくられた荘園です。荘園とは、古代から中世にかけて、天皇や有力な貴族、勢力の強い寺社の領地を示します。足守荘は、最終的には、寿永二年(1183)に後白河法皇から京都の神護寺に寄進されました。そのため、足守荘の様子を描いた絵図(足守荘絵図)は、現在、神護寺に伝来されています。

足守荘絵図には、左の端に足守川、右の端には丘陵、中央には碁盤目に整然と区画された桑里地割の水田、水田と丘陵の間には荘園を南北に貫く道が描かれており、この道は旧街道と重なることから、旧街道が荘園の時代まで遡ることを確認することができます。ほかに、八幡神社のある八幡山、冠山城のある福岡山、周辺の水田を潤していた半刀池も描かれており、それらは現在の地形とも一致します。足守全体は、荘園の景観が極めて良好に保存されている荘園遺跡であるといえます。
(岡山市教育委員会)



